

概要

①テクニカル分析について

②ファンダメンタルズ分析について

利点と欠点を理解する

テクニカル分析

全ての情報が市場に織り込まれた結果で反映されていると認識
即座の判断がし易く客観的な判断ができる、自分に合った手
法を取り入れられる、などの利点がある。

但し、テクニカル分析には騙しが含まれる。

ファンダメンタルズ分析

長期のトレンドを確認するには有効だが、短期では使い難い場合が多い
大衆心理に利用され易いので、相場テーマに乗れば良いが、
全ては使い方次第。思い込みや過信は禁物

市場のテーマに乗った分析を行い、重要なのは事後に指標を再分析

テクニカル分析

(1)移動平均線から見る

(38週と62週...フィボナッチ数値を使う)

A:116円60銭、B:115円30銭、38週線:112円49銭、62週線:109円23銭

LongTerm Japanese yen-Weekly



(2) P&F (時間軸を無視したトレンド探るチャート)

出来る限り、自分でチャートを作り、トレンドを知る

マークは通常ドル高は×、ドル安は○で記入

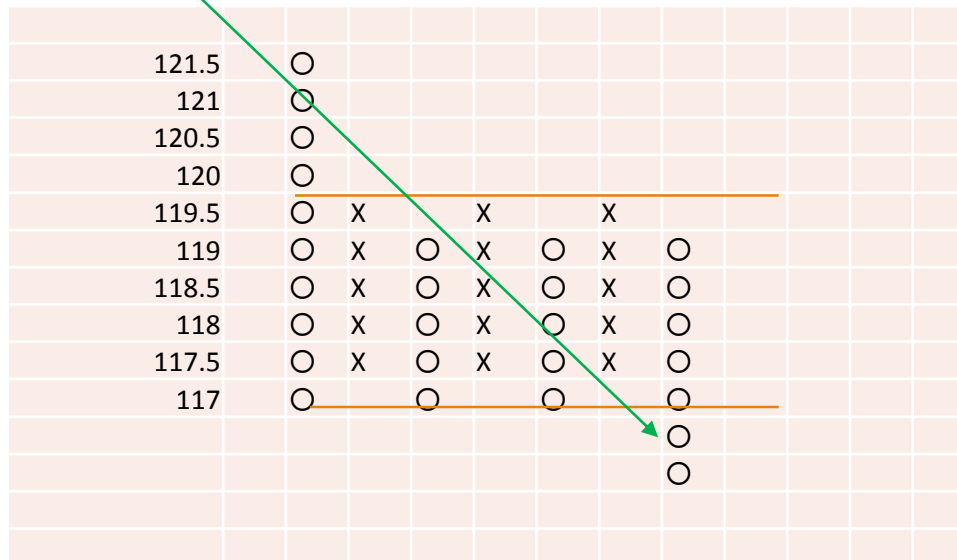
60分、24時間、365日追わないといけないので、大きなトレンドとなる50銭ベースにして、同一方向に3コマ(1円50銭以上=50銭×3コマ)動いたら付ける。(海外時間は利用できるチャートの10分足～3時間足位で確認)

その後も3コマ以上の反転をしない限り、50銭毎に同一方向に付け加えていく

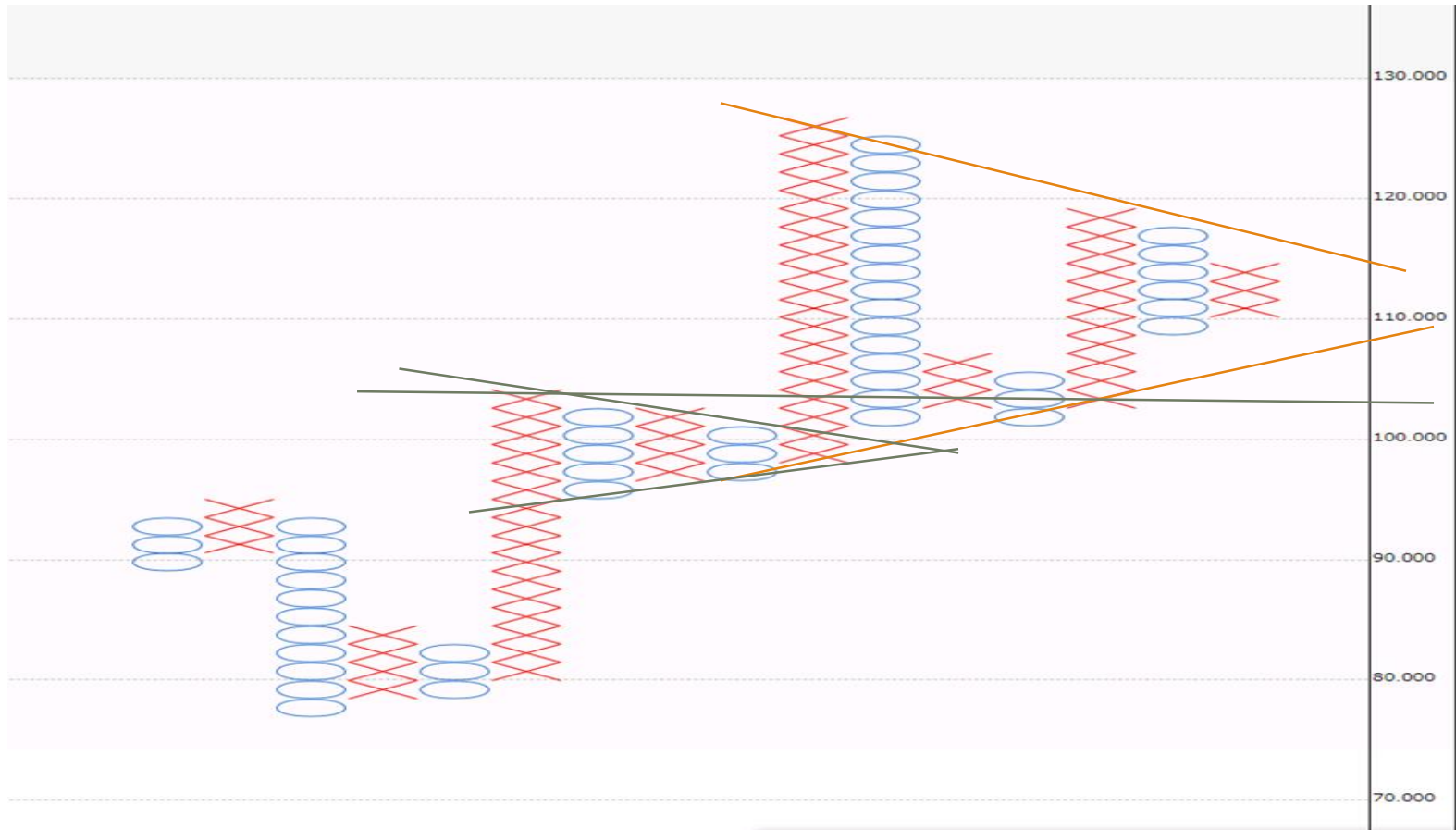
相場が最低3コマ反転したら、マークと行を替えて記入する

上記の繰り返しで相場の方向性、トレンドラインを加え、場合によっては水平カウンティングや垂直カウンティングで目標値を探る

P&Fの例: ○はドル下落、×はドル上昇、50銭が3つ以上動いた場合(丁度のレベルから1円50銭以上動いた場合に付ける)P&Fは時間軸を無視したチャート
売りシグナル発生 = 水平カウンティングの計算は $120\text{円} - (50\text{銭} \times 3 \times 6) = 111\text{円}$ が参考目標値となる。
 但し、上下を繰り返しながらの下落で一気に下がる訳ではない

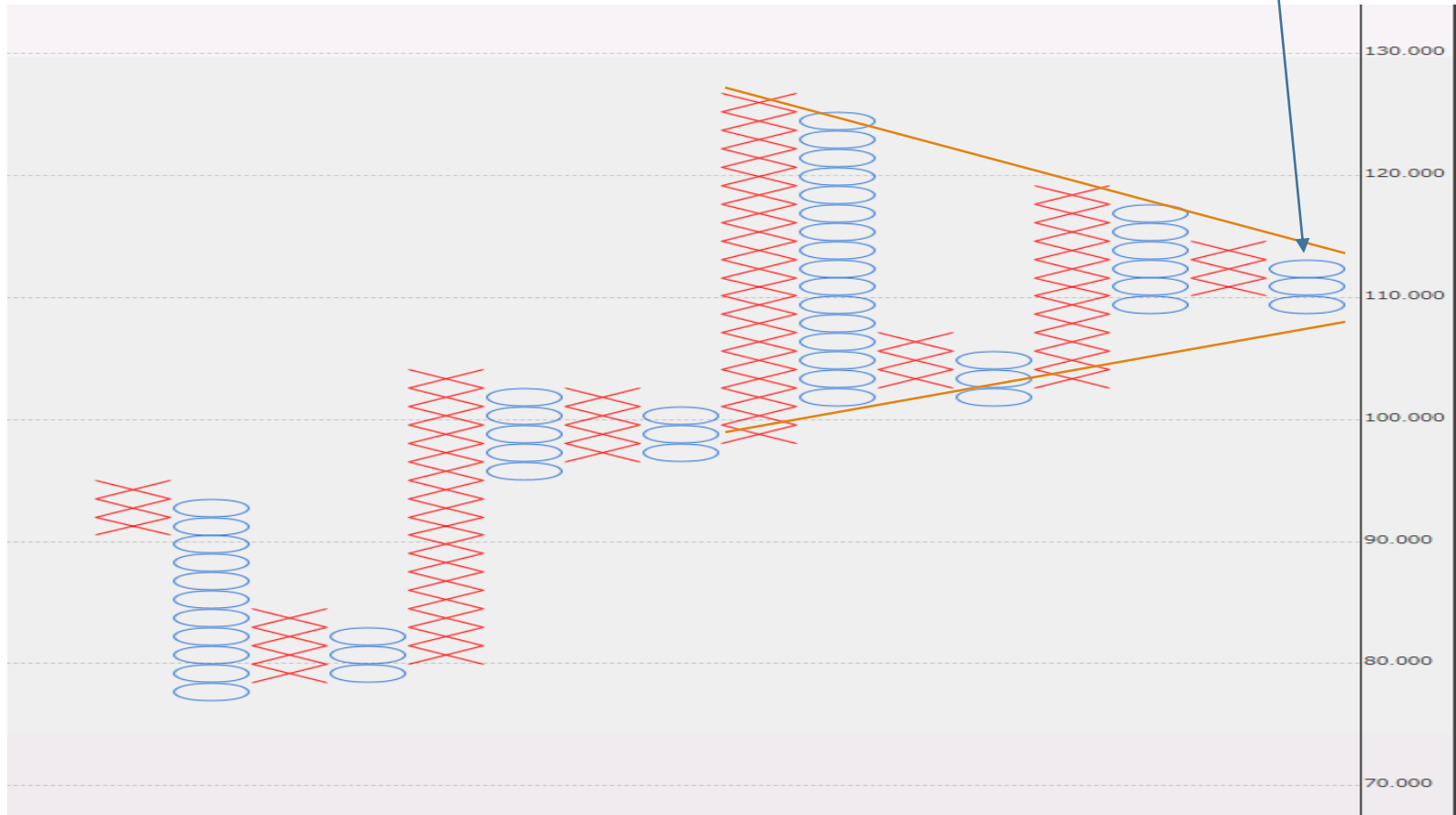


P&F:ドル円1 (1.5X3) 2017年8月23日現在①
現在は105円～117円50銭で収斂中。108円50銭が付くと新たな青〇3つ加わる。

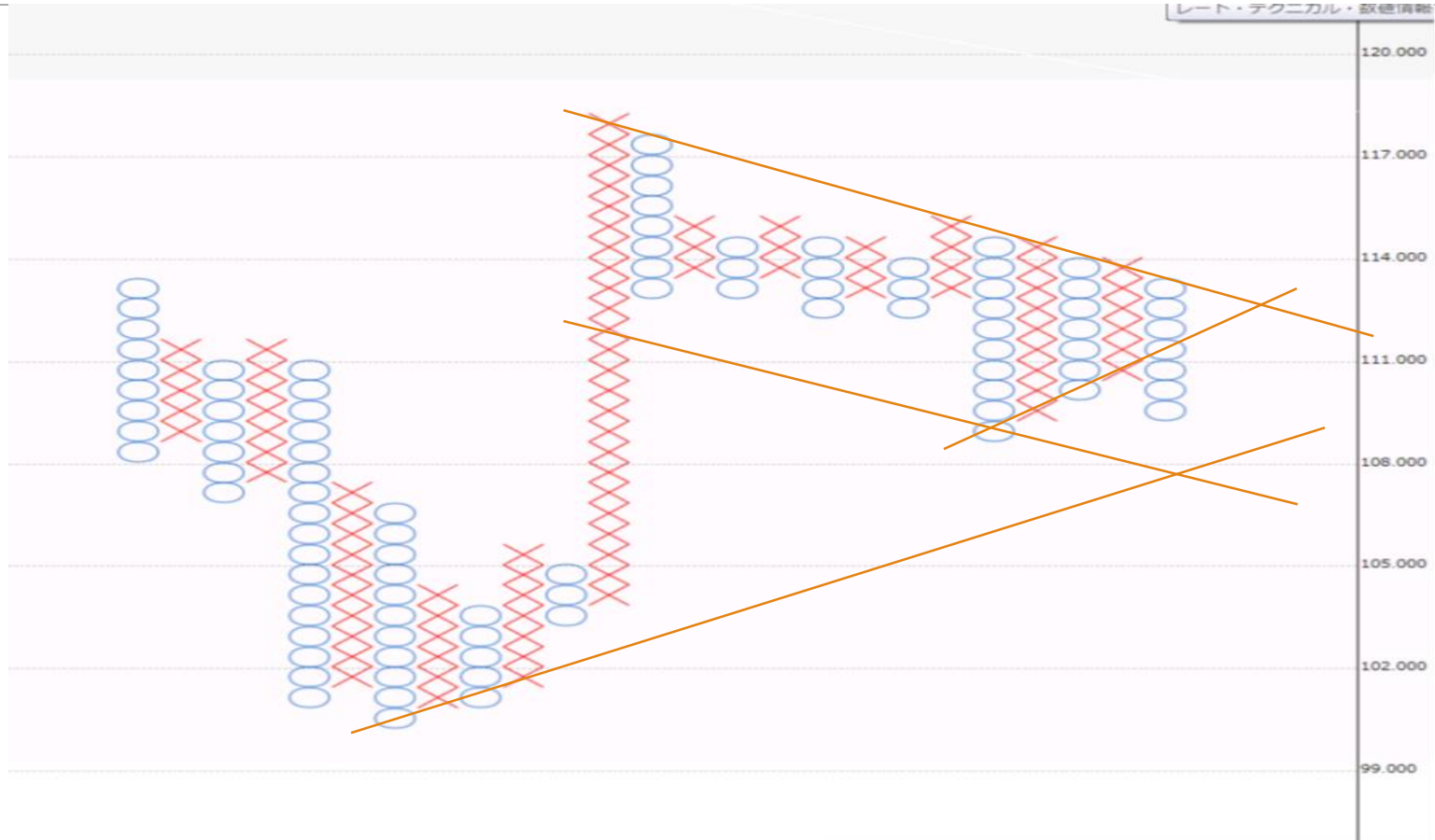


ドル円1 (1.5X3) 2017年9月27日現在②

9月8日に107円32銭まで下落したが、107円を付けていないので○は増えずに9月27日現在は112円台前半。

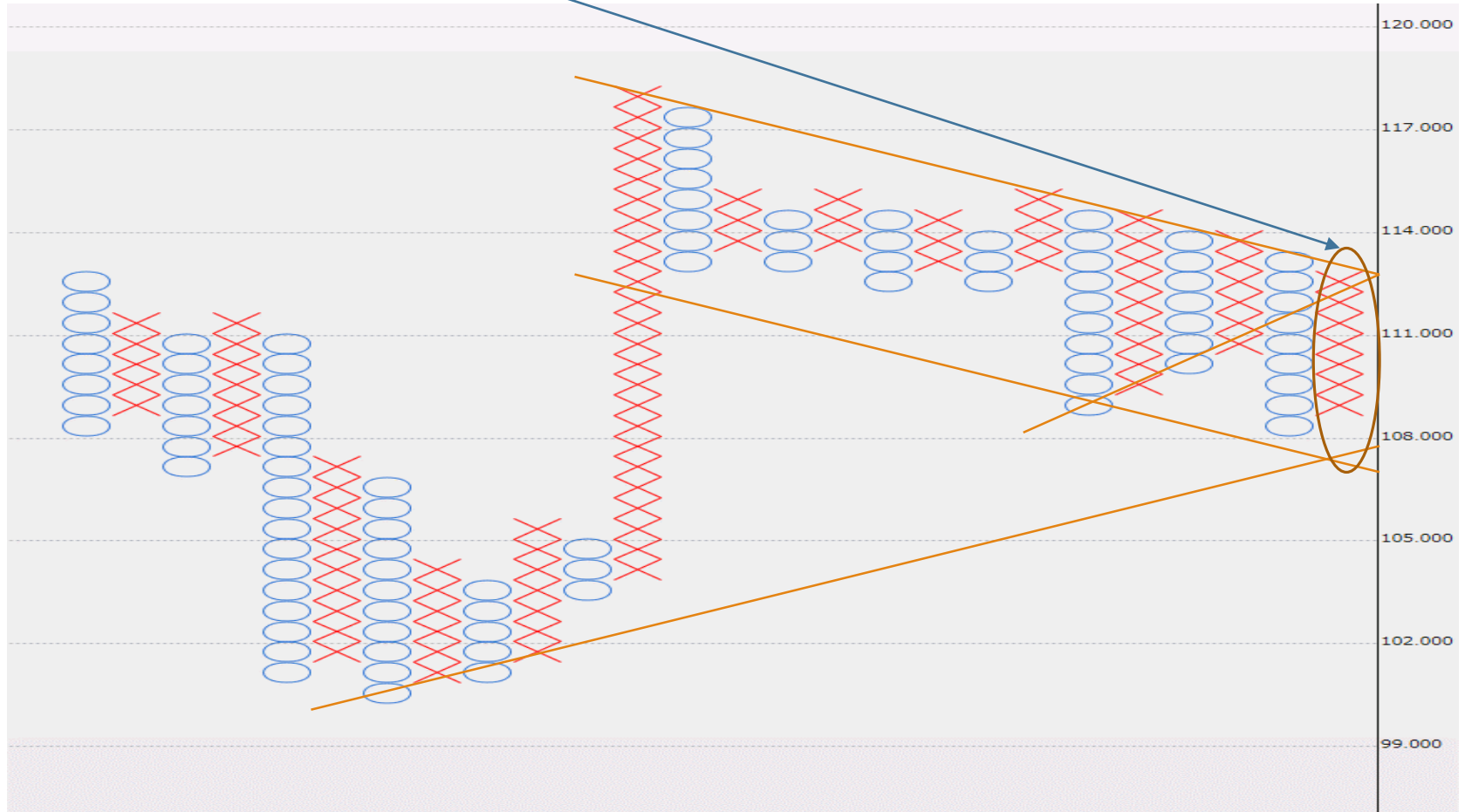


P&F:ドル円2(60銭X3)2017年8月23日現在1
Bを切りドル弱い状態。CとDが交差する108円が当面の目途
だが、60銭刻みなので107円50銭までの下落余地がある。



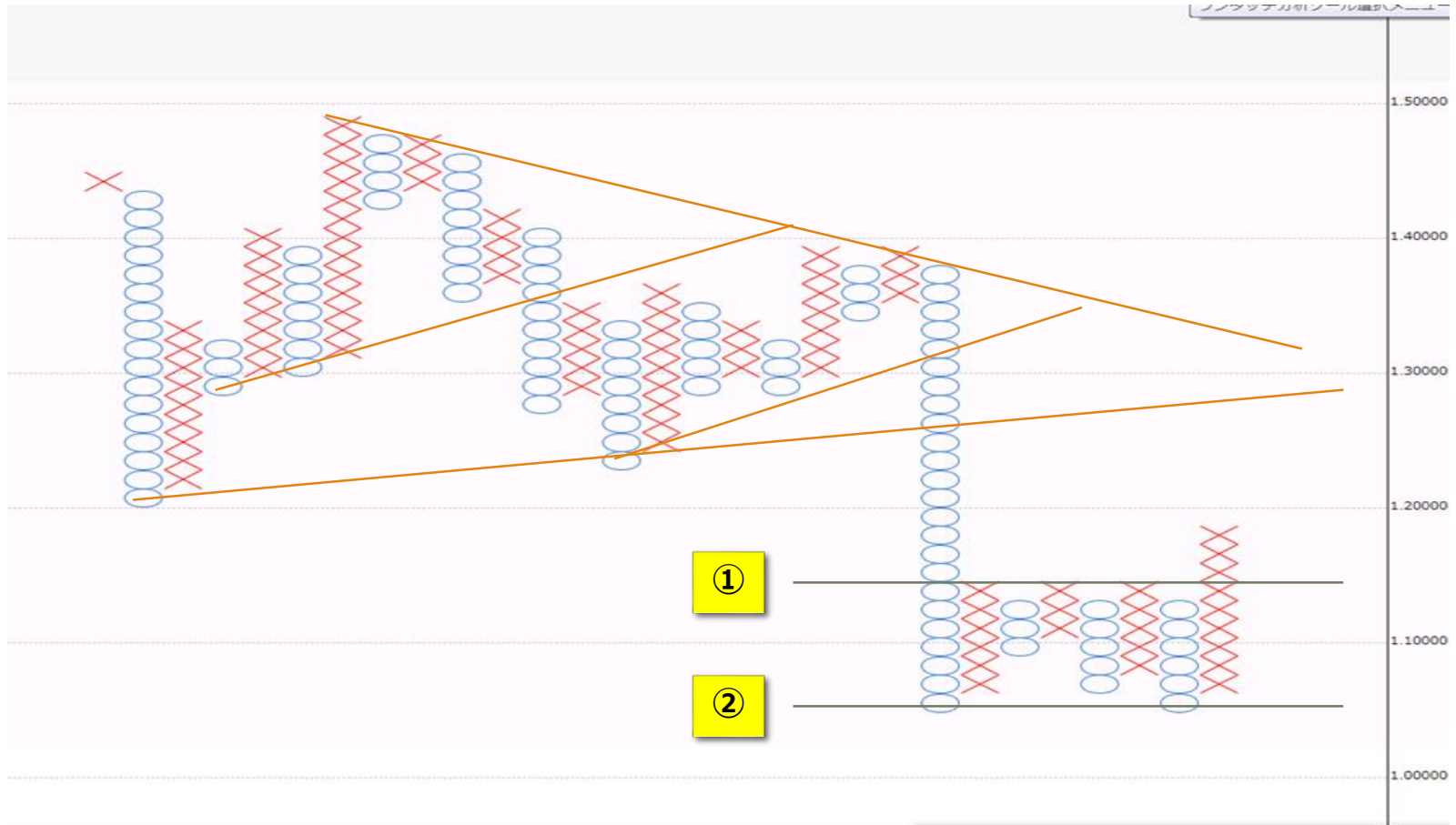
ドル円2(60銭X3) 2017年9月27日現在2

収斂の極みにきている



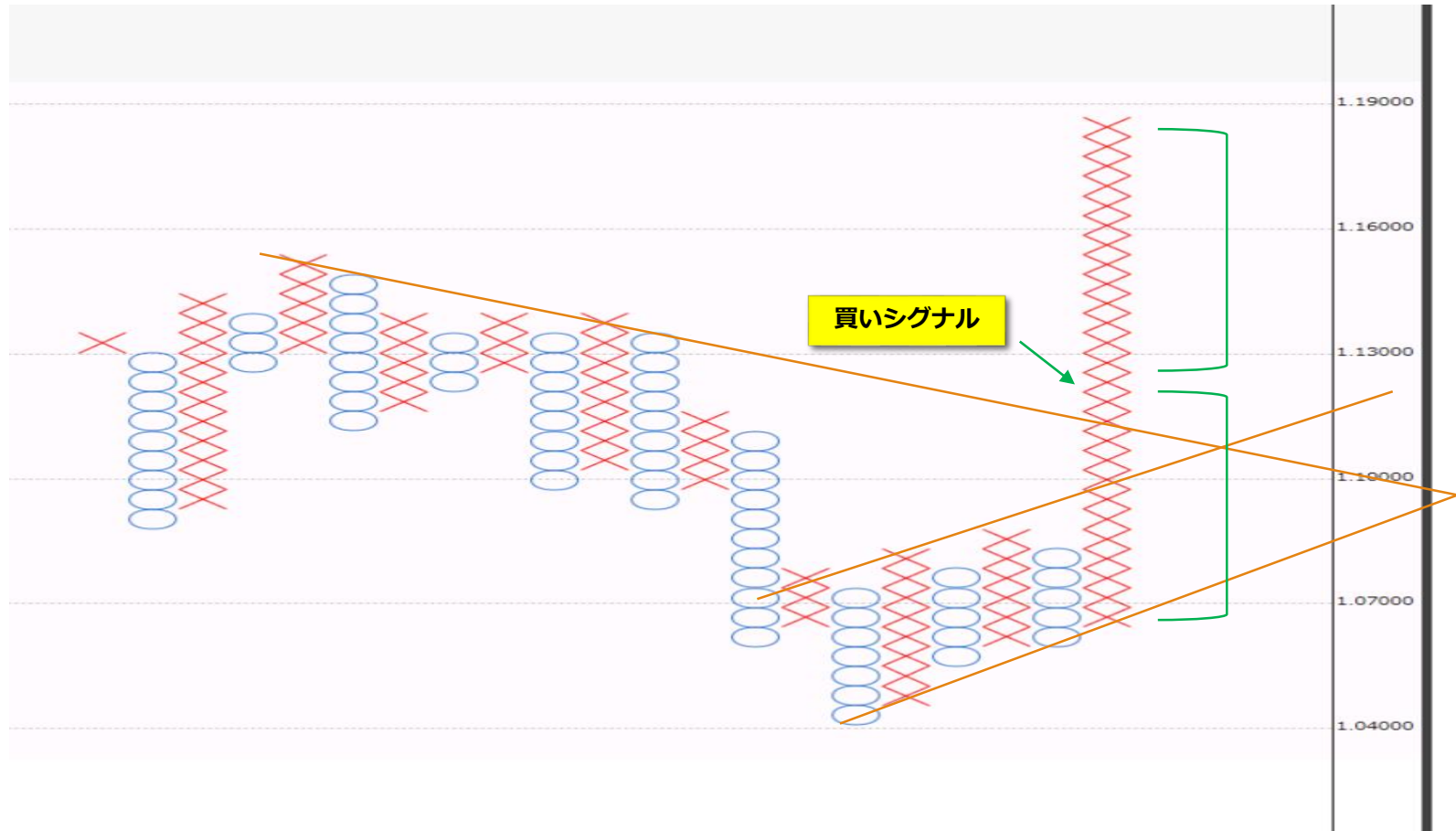
P&F:ユーロドル1 (150ピップスX3)

①と②は典型的な横持合い離れで水平カウンティングが可能
150ピップスX3X7波動=3150ピップス, ②の $1.05 + 0.315 = 1.3650$ の目標
値が計算できる



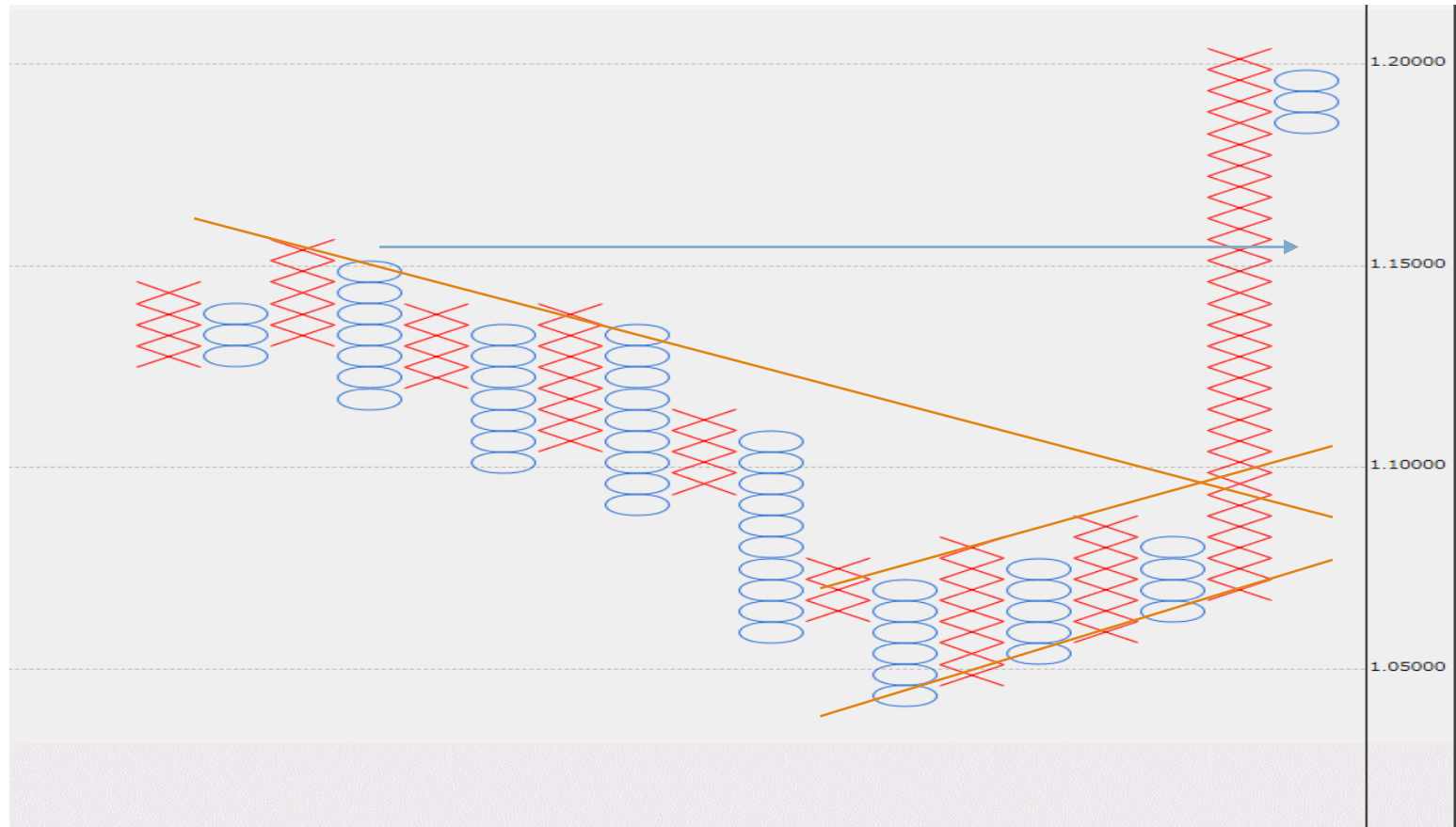
P&F:ユーロドル2(50ピップスX3) 1

垂直カウンティングは買いシグナルから同じ幅だけ上昇。この例では13ポイントずつ上下でカウント。更に一度反落し再度上昇した場合に同じ幅(26)上がると計算
相場が強い状態でないあまり出ない。



ユーロドル2 (50ピップスX3) 2

ほぼ目標値達成後に反落始めている。9月27日現在



ユーロ/ドル(月足)

③の下抜け後、現在は③までの戻り。現状ではP&Fの垂直カウンティングの戻りと一致。
③を越えると①1.29や②1.31が見えてくる



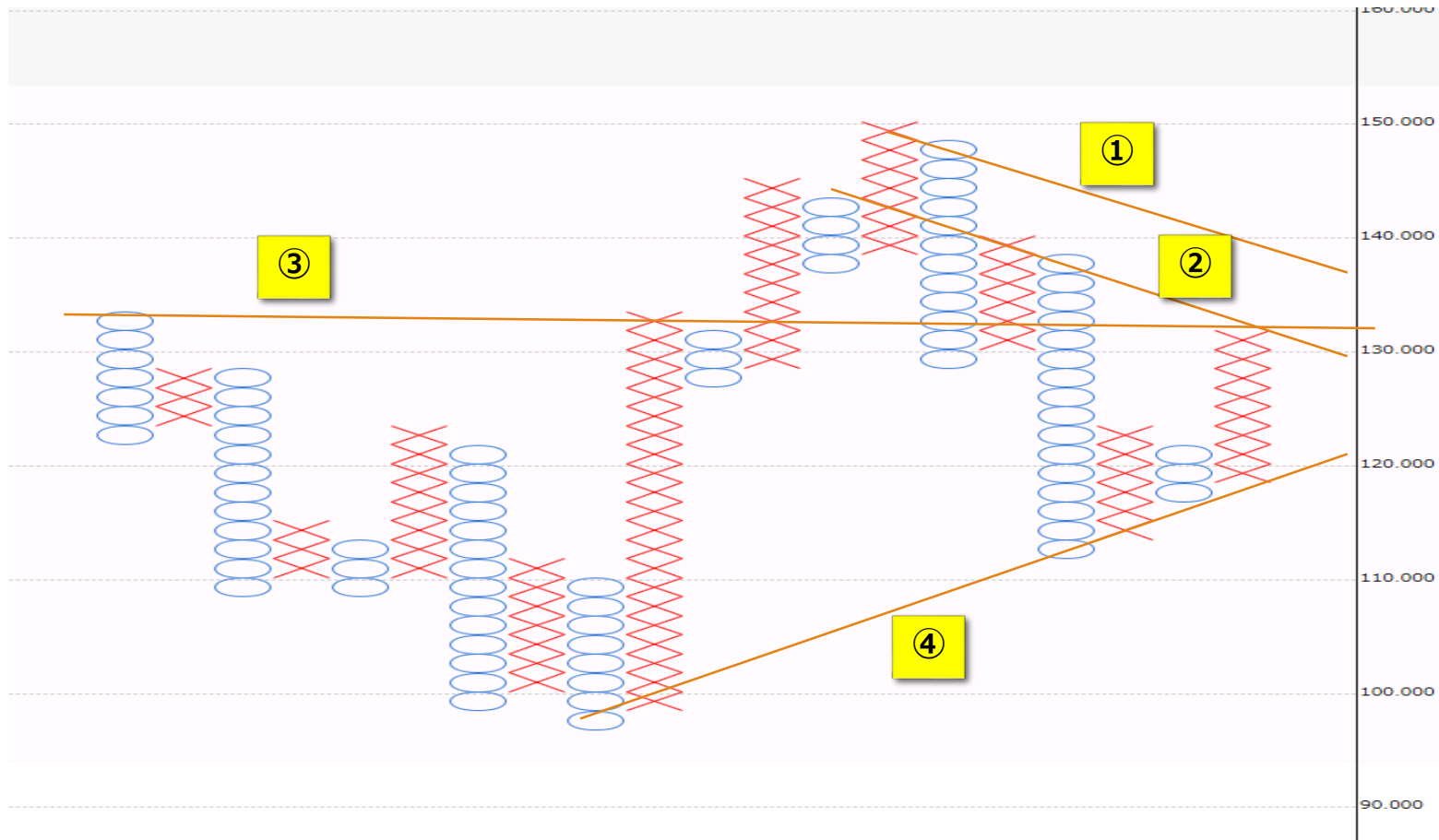
ユーロ/円1(月足)

2010年から3回大きなトレンドが変わる(青の○印で確認)

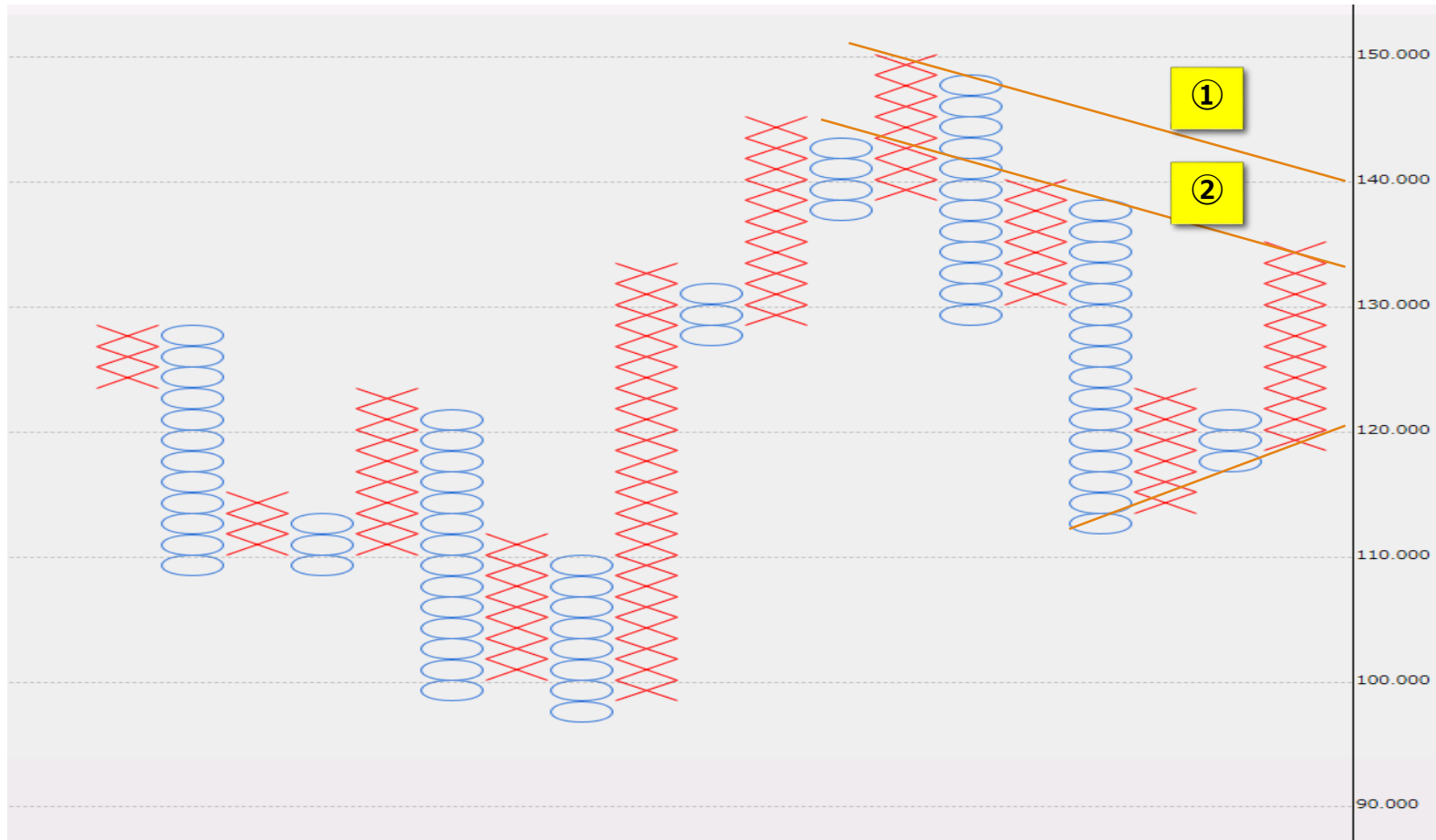


ユーロ/円2(1.5X3)1

現在は②と③の重要な抵抗線に阻まれている。越えれば①が視界に入り、反転すれば③が視界に。

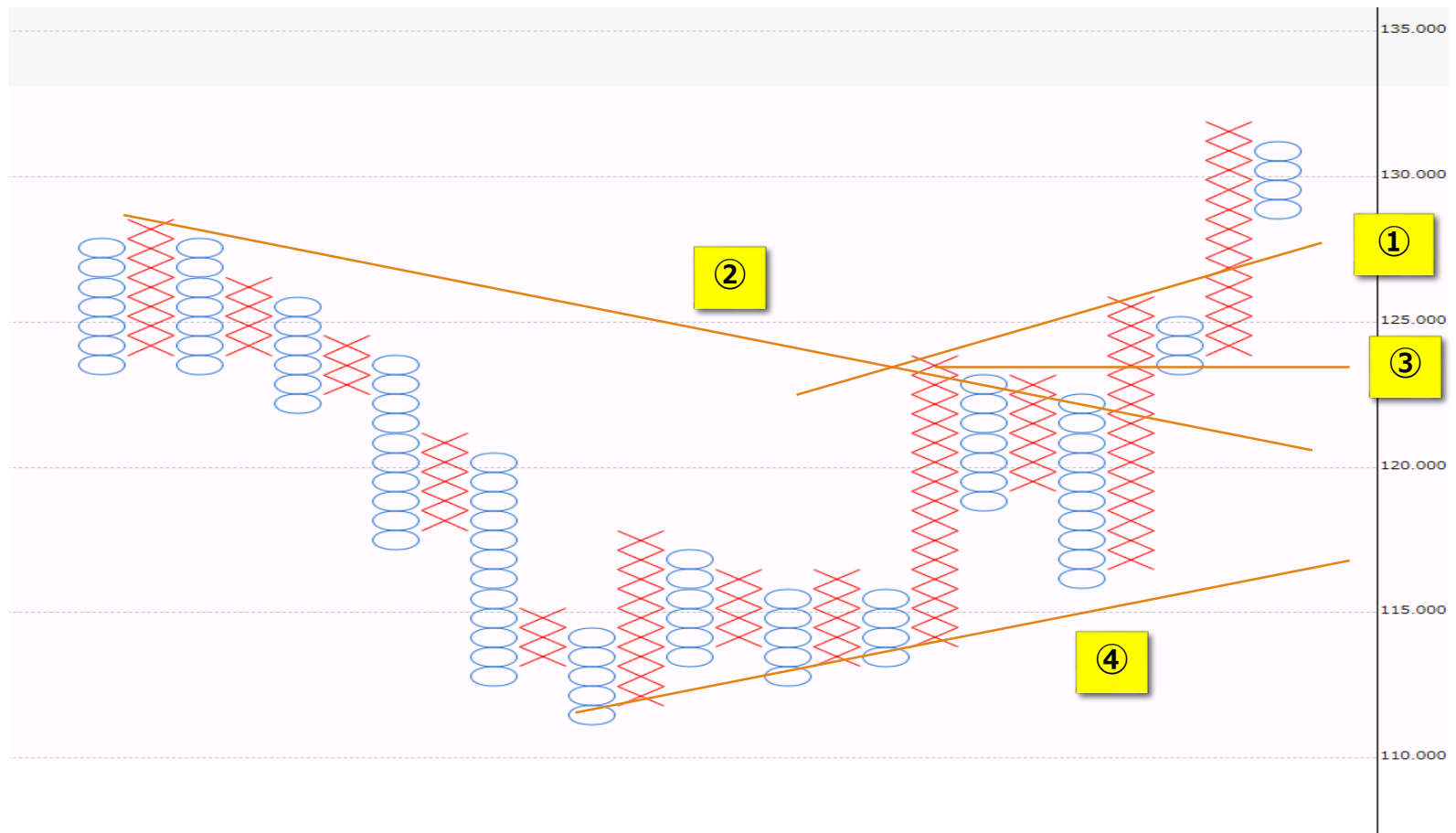


ユーロ/円2(1.5X3)2 抵抗線②迄上昇。①迄行けるか反落するか



ユーロ/円3 (50銭X3)

現在は高値から反落中131円を付けないとXが記入
入できず、まだ①方向への流れ



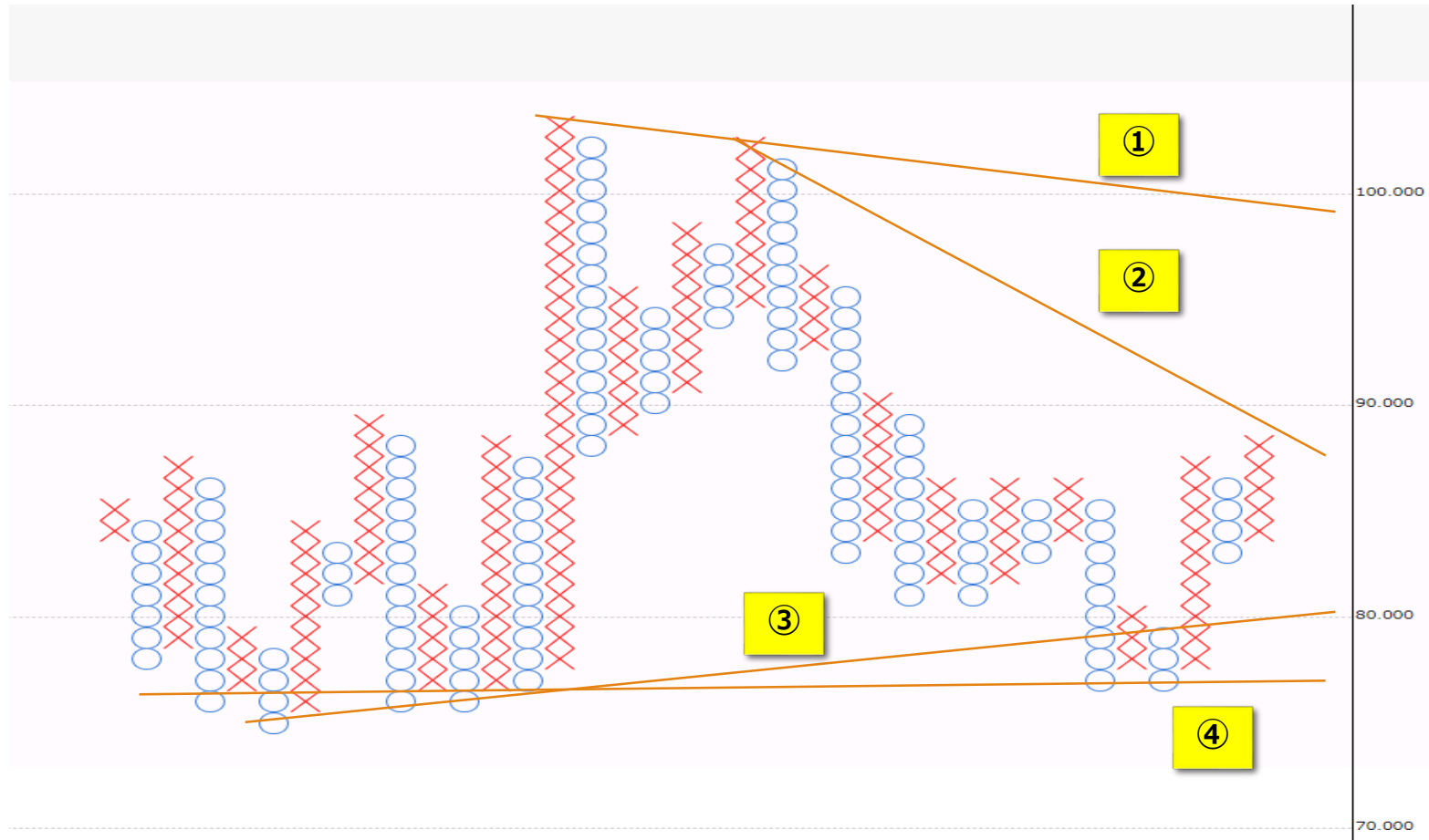
ユーロ/円4(ローソク足・週足)

上昇ライン③を下抜き調整局面入り。次のサポートは④(前頁の①)、場合により⑤(前頁の②～③)が狙い目になる。



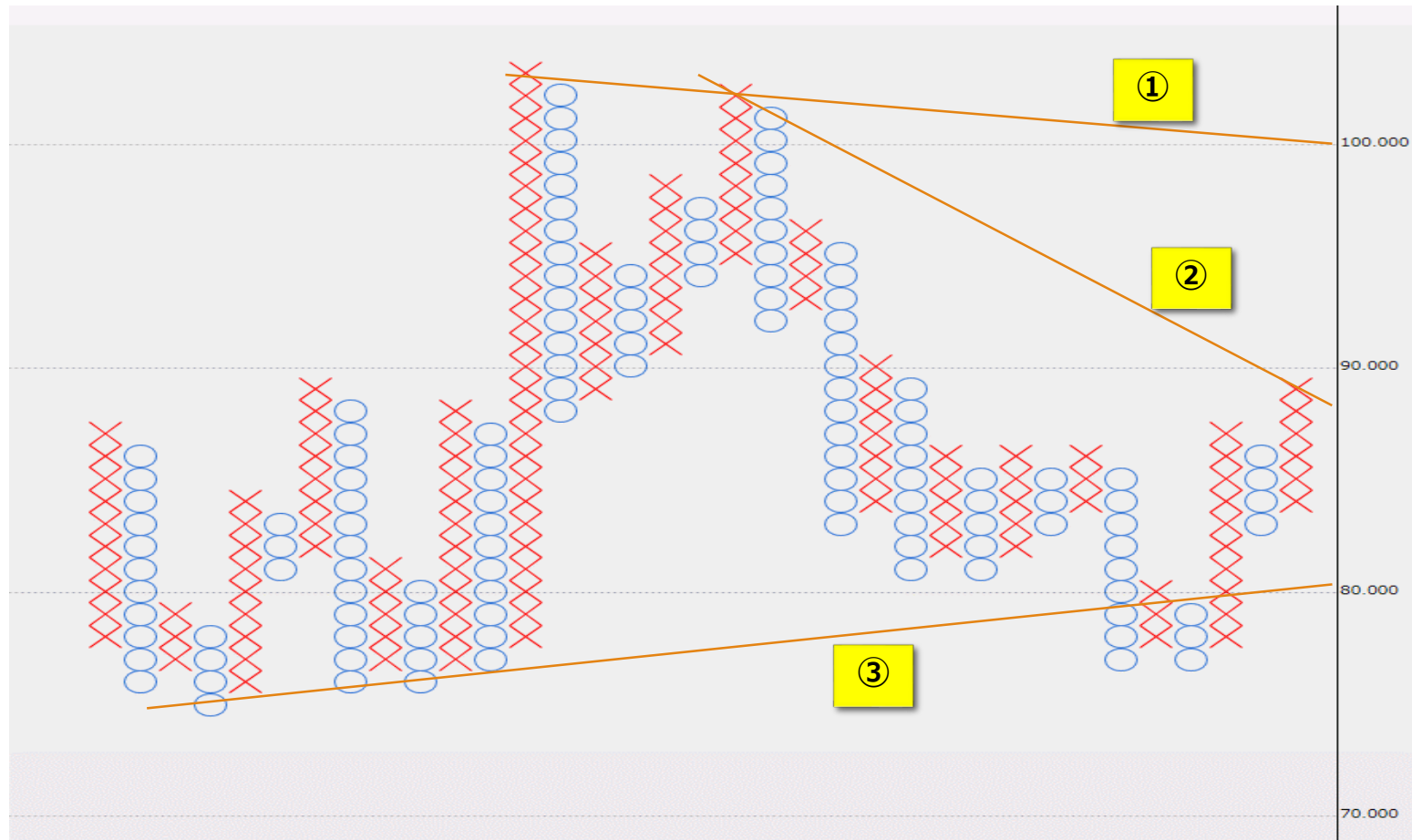
豪ドル/円(2円X3) 1

②と③内での収斂中。底値は④付近で何度も止められており、かなり強いサポートになっている。上値は②抜ければ①方向の流れに。



豪ドル/円(2円X3) 2

抵抗線2迄上昇。90円の壁にぶつかる。抵抗線1迄行けるか、もし抜けなければ反落。



(ご参考) オシレーター系指標の解説

(1)トレンド系・・・トレンドの方向性や強さを判断する分析指標

(2)オシレーター系・・・相場の上がり過ぎや下がり過ぎ(あるいは買われ過ぎや売られ過ぎ)を客観的な数値としてチャート等に表したものを指します。絶対的判断材料ではないので、通常は幾つかを組み合わせる使うのが効果的と言われています。

(2)の代表的な指標としては①RSI、②ストキャスティック、③MACD、④ROCなどが挙げられます。

オシレーター系指標

- RSI(Relative Strength Index)は、一定期間の中で、「値上がり幅を(値上がり幅の合計+値下がり幅の合計)で割ってパーセンテージで表した」ものです。この一定期間の置き方によって数値が変わります。通常は14日間が良く使われる期間となっています。50%を中心に20%~80%がその範囲内で、20%以下になれば売られ過ぎ、80%を越えれば買われ過ぎと判断します。この幅を30~70%で見ている人もいます。強いトレンドが発生している場合には買われ過ぎが継続し、必ずしもピンポイントなシグナルがでるとは限りません。
- ストキャスティックは「%K」、「%D」、「%SD」という曲線から、買われ過ぎや売られ過ぎを判断する指標です。「%K」はある期間内の最高値と最安値の間に、現在のスポットがどこにいるのかを示しています。スポットが最高値と最安値の間であれば「%K」は50になります。「%D」は「%K」の平均線で、%Kより遅れて動きます。「%SD」は「%D」の平均を表しています。一般的には「%K」と「%D」の2曲線を合わせて使います。この指標も20%~80%で使うことが多いですが、30~70%を使う人もいます。%Kが%Dを上抜けると買い、%Kが%Dを下抜けると売りになります。RSI同様に強いトレンドが継続している場合は機能し難くなります。
- MACD(Moving Average Convergence/Divergence Trading Method)は移動平均の収束・拡散手法と呼ばれています。単純移動平均線(SMA)ではなく、平滑移動平均線(EMA: Exponential Moving Average)と言われる移動平均線を使います。最近のスポット価格に比重を置いて、過去になればなるほど比重を軽くします。これを9日線と25日線(あるいは12日と26日など)で作成して移動平均線を作ります。売り買いは例えば9日線と25日線の絡みなどで判断します。SMAと比べEMAは動きが早くなり、トレンドの転換は早く察知することができる反面、騙しも多くなります。
- エンベロープ(Envelope)とは移動平均線から上下に一定割合で乖離させた線のことで、スポットがその上下のラインからどの程度乖離しているかを見極めて売られ過ぎ、買われ過ぎを判断します。最近はこの移動平均線をSMAよりEMAを使って上下のバンドを作っている場合が多くなっています。ボリンジャーバンドと違い、一定幅での推移になります。
- ROC(Rate of Change)はレンジ相場に役立つテクニカル指標と言われています。算出方法は $ROC = \frac{\text{当日の終値} - n \text{ 日数前の終値}}{\text{当日の終値}} \times 100$ となります。100を基準値にして下から上抜けと買い、逆は売りなどの判断になります。上げの角度が急激になると相場強いなどの判断をするときもあります。

<リスク開示>

このセミナーは、情報提供を目的としており、FX取引の勧誘を目的としたものではありません。また、実際の市場動向とは異なる可能性があり、断定的判断を提供するものでもありません。当該セミナーの内容を予告なく変更する場合があります。

当該セミナーの内容および資料のご利用によりお客様に損失が生じた場合であっても、当社および当該セミナーの講師（所属会社を含む。）は一切の責任を負いません。お取引につきましては、お客様ご自身の判断と責任において行っていただきますようお願い申し上げます。

なお、セミナーに関する著作権は、当社および作成者に属します。

お客様の私的使用目的以外での使用、他人への譲渡や販売または再配信等を行うことはできません。

<注意喚起>

店頭外国為替証拠金取引は、元本や利益を保証した金融商品ではなく、為替レートの変動等による損失発生可能性があります。さらに、レバレッジ効果（想定元本と比較して少額の資金で大きな取引ができる仕組み）や為替レートの変動等によって注文（ロスカット注文を含む）が約定しない場合等、元本を上回る損失発生の可能性があります。

特に、マイナー通貨（流動性の低い通貨）の取引をされる場合、元本以上の損失発生の可能性が高くなります。加えて、スワップポイント（通貨間の金利差調整額）においては通貨ペアやポジションの状態（売りまたは買い）によっては、受け取れる場合もあれば、支払わなければならない場合もあります。

当社は、インターネットを通じて店頭外国為替証拠金取引サービスをご提供しておりますので、お客様のパソコン・インターネット環境や当社のシステムに不具合が生じた場合等、取引ができなくなる可能性があります。また、お客様の取引の相手方は当社（相対取引）となっており、取引所取引とは異なりますので、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、内容をご理解の上、ご自身の判断により取引を行っていただきますようお願いいたします。

商号：ヒロセ通商株式会社

業務内容：第一種金融商品取引業

登録番号：近畿財務局長（金商）第41号

加入協会：金融先物取引業協会会員番号1562